

第3部 保護者の精神健康度と子どもとの関連に関すること

(1) 保護者の精神健康度の状況

保護者の精神健康度の状況を見てみると、リスク低群が71.0%、リスク高群が29.0%という結果であり、保護者の約3人に1人が精神健康度が低い傾向が見られた。(図49)

また、多数が避難していない相馬地区(飯館村を除く)と避難をしている(していた)双葉郡及び飯館村と比較したところ、保護者の精神健康度に差はないように見られた。(図50)

図49 保護者の精神健康度の状況

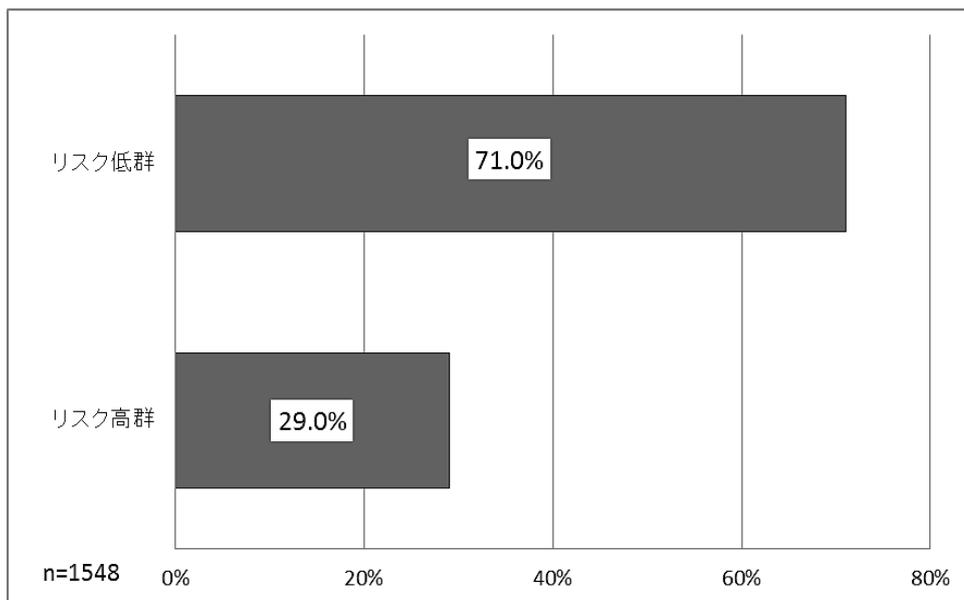
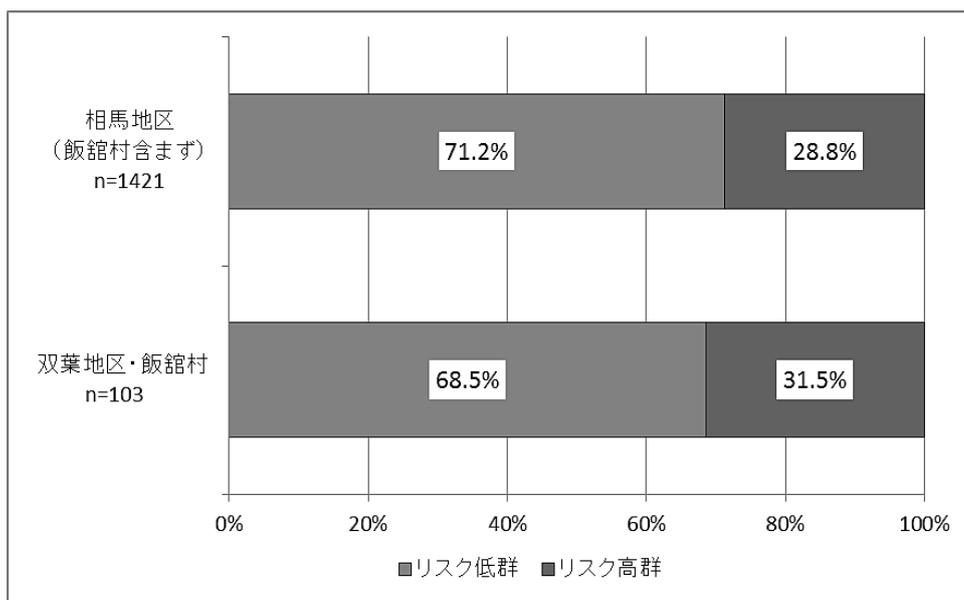


図50 地区別 保護者の精神健康度の割合



※ 全村避難をした飯館村については、双葉地区と合わせて、比較を行った。

(2) 子どもの食習慣との関連について

子どもの食習慣との関連については、野菜の摂取状況において、「ほとんど食べない」と回答した者のうち、リスク低群では6.2%、高群で9.8%であり、3.6%の差があった。(図51) 外食においては、「週1回以上」と回答した者の合計をみると、リスク低群で17.8%、高群で22.2%であり、4.4%の差があった。(図52) インスタント食品においては、「週1回以上」と回答した者の合計をみると、リスク低群で19.4%、高群で27.1%であり、7.7%の差があった。(図53) おやつとの関連においては、「決めていない」と回答した者のうち、リスク低群で42.8%、高群で54.6%であり、11.8%の差があった。(図54)

また、この結果から、 χ^2 検定を行ったところ、「野菜をほとんど食べない」($\chi^2=6.2, p<0.05$)、「外食を週1回以上利用する」($\chi^2=4.2, p<0.05$)、「インスタント食品を週1回以上利用する」($\chi^2=9.9, p<0.01$)、「おやつを決めていない」($\chi^2=19.0, p<0.01$)という特徴を持つ子の保護者では、リスク高群の割合が低群よりも有意に多かった。

図51 子どもの野菜摂取状況との関連

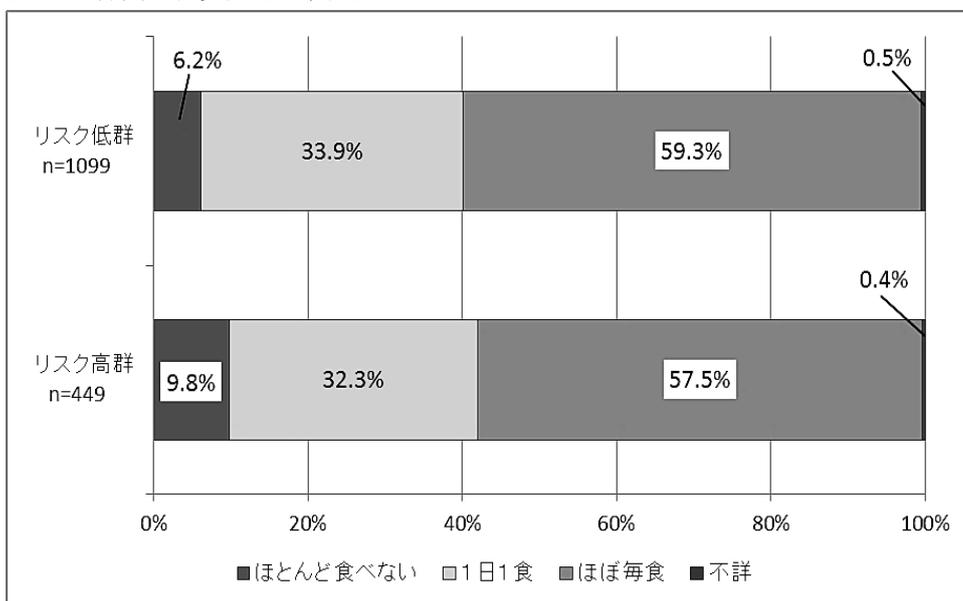


図52 子どもの外食の頻度との関連

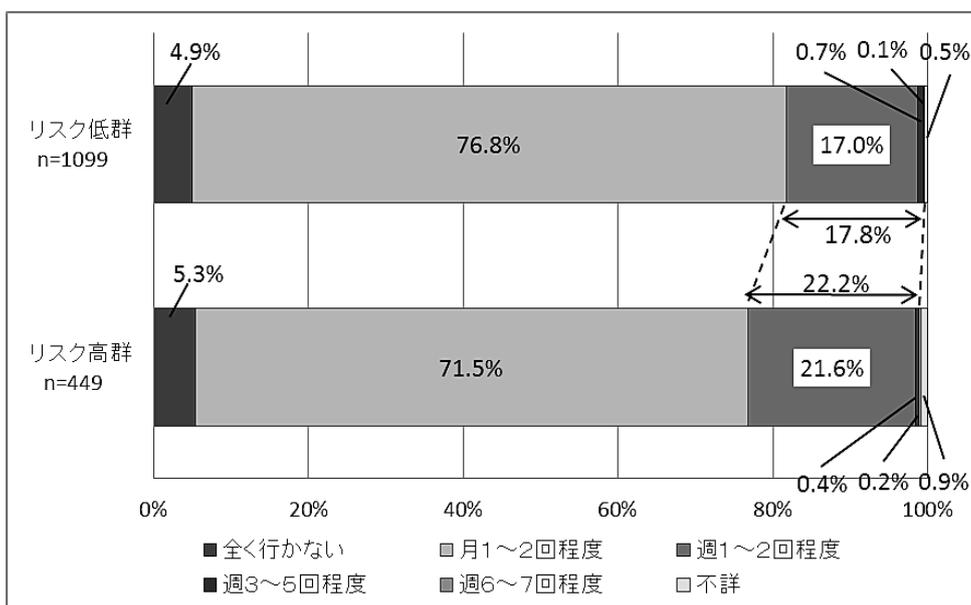


図 53 子どものインスタント食品の頻度との関連

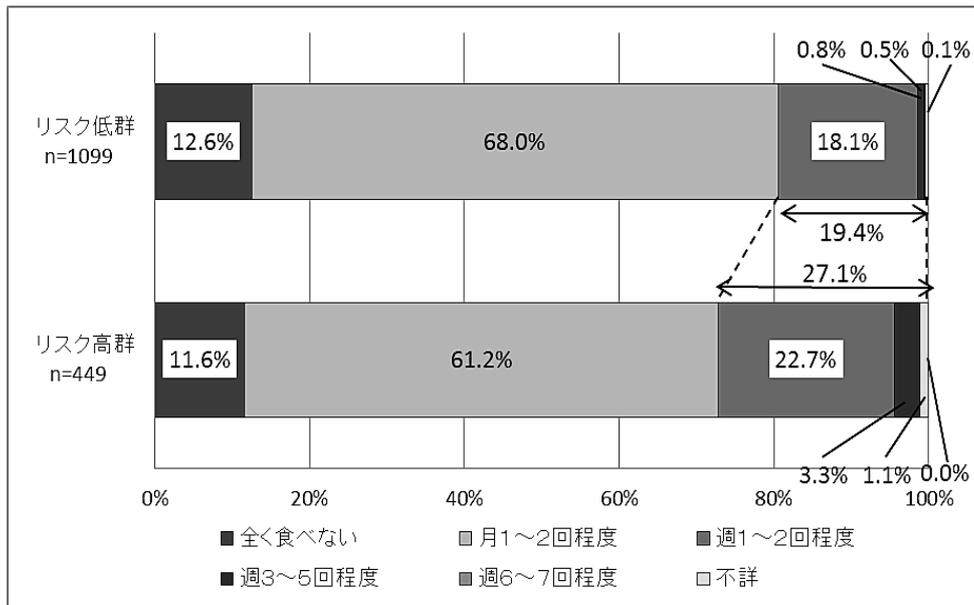
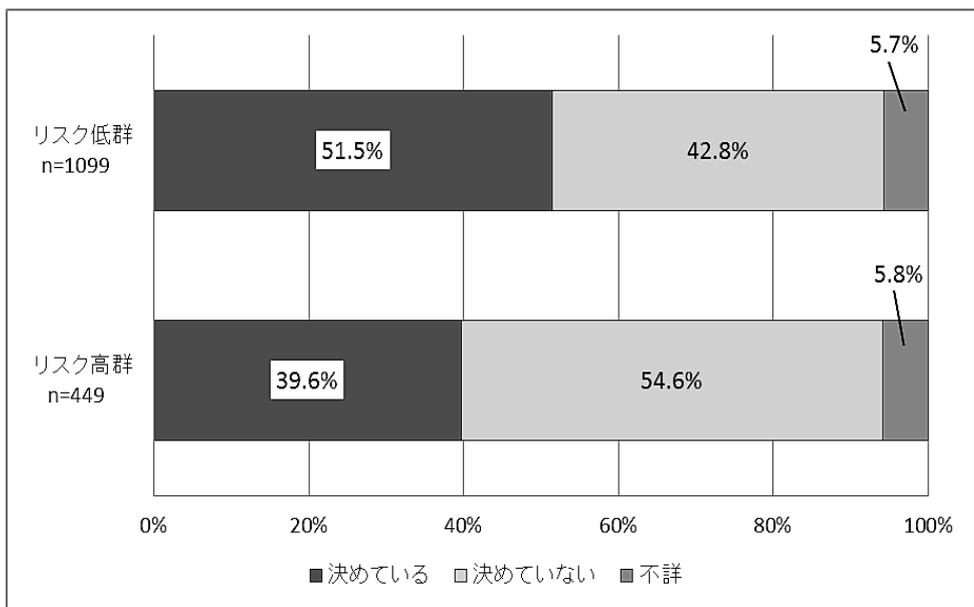


図 54 子どものおやつ量の量との関連



(3) 保護者の気持ちとの関連

保護者の気持ちとの関連については、食事づくりが「どちらかと言えば苦になる」、「苦になる」と回答した者の合計をみると、リスク低群で37.2%、高群で58.1%であり、20.9%の差があった。(図55) 保護者が楽しく食事を「どちらかと言えばしていない」、「していない」と回答した者の合計をみると、リスク低群で7.2%、高群で26.5%であり、19.3%の差があった。(図56) 保護者自身が「どちらかと言えば健康ではない」、「健康ではない」と回答した者の合計をみると、リスク低群で9.7%、高群で36.5%であり、26.8%の差があった。(図57)

また、この結果から t 検定を行ったところ、保護者の食事づくりが「苦になる (1 点) ~ 苦にならない (4 点)」の 4 段階スコアとし、リスク低群と高群の食事づくりスコアの平均値は、2.4 対 2.8 と有意差があった ($t=7.9, p<0.05$)。保護者が楽しく食事を「していない (1 点) ~ している (4 点)」も同様に両群のスコアの平均値は、2.9 対 3.4 と有意差があった ($t=12.7, p<0.01$)。このことから、リスク高群の方が低群よりも食事づくりの充実や食事の満足度が低いことがわかった。

さらに、保護者自身が「健康である (1 点) ~ 健康ではない (4 点)」も同様に両群のスコアの平均値は、2.7 対 3.2 と有意差があった ($t=12.6, p<0.01$)。

図 55 保護者の食事づくりのつらさ感との関連

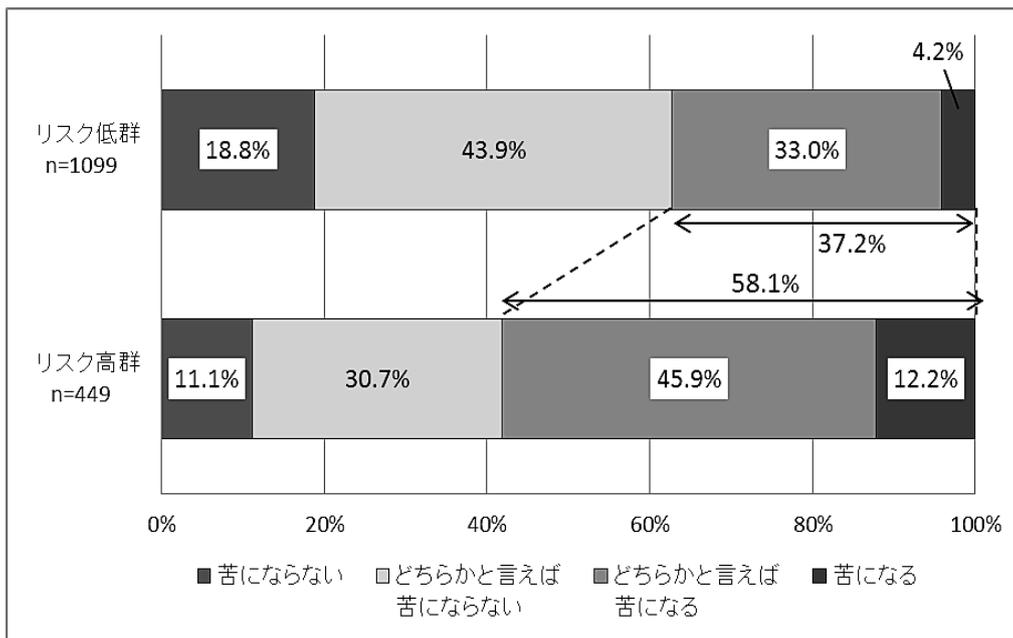


図 56 保護者の食事感との関連 「楽しく食事をしているか」

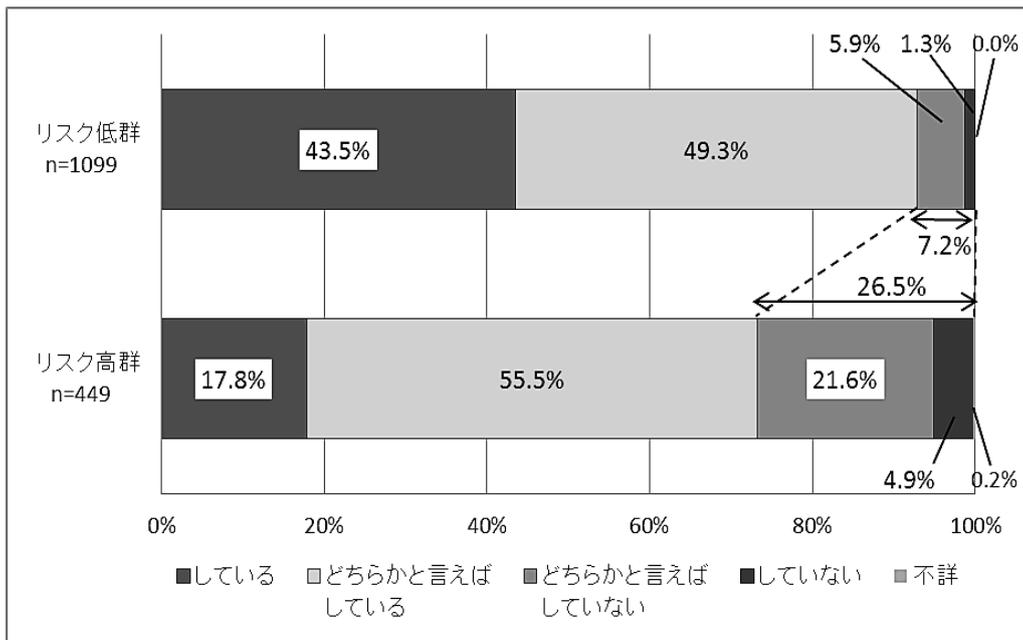


図 57 保護者自身の健康認識との関連 「自分自身のことを健康だと思えますか」

